

## 研究推進校事業報告書

### <取組と成果のポイント>

#### ○ 家庭・地域との連携を生かすための工夫

保護者向け道徳授業や、よさっぴ道徳通信など、家庭や地域と連携した道徳の実践を重ねたことで、家庭との連携を深めることができた。特に、保護者向け道徳授業は、同じ日の授業参観で行う道徳授業の模擬授業という形で、生徒と同じ教材、同じ指導案で行った。保護者や社会人としての立場など、様々な経験をされているからこそその迷いや葛藤を抱きながら発言している保護者の姿が見られた。その後の授業参観では、生徒たちが道徳の授業で交わす議論に保護者が共感したり、保護者の願いを生徒が受け取ったりしたことで、家庭で道徳の授業について話題に挙がる機会になったのではないかと考える。

#### ○ 教員の授業力向上に向けた取組

外部講師の招へいや師範授業、教員同士による研修を重ねたことで、教員同士が対話しながら授業を構想する姿が見られるようになった。また、中心発問や深化発問を何通りも考えながら、こだわりをもって授業に挑む姿が増えた。

## 1 研究推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	生 徒 数	備 考
刈谷市立依佐美中学校	刈谷市小垣江町上沢渡 5 番地 1	0566(21)0487	708 名	

## 2 研究課題

### (1) 「特別の教科 道徳」授業の指導力向上のための取組

#### ○ 道徳教育に係る外部講師派遣

岐阜聖徳学園大学の山田貞二教授を講師として、年間 5 回招へいし、研修を行う。

#### <外部講師に指導していただく内容>

- ・道徳授業における教員の授業力向上
- ・師範授業と、授業づくりに対する指導・助言
- ・道徳の授業づくりと評価の在り方に関する検証
- ・本校独自の取組「小さな道徳」に対する指導・助言
- ・年間計画への助言
- ・保護者や地域への取組状況に対する評価及び助言

### (2) 家庭・地域との連携による道徳教育の取組

授業参観において、道徳授業の公開を計画的に行う。また、学校通信や学年だよりなどを通して、道徳授業の中で生徒たちとともに考えてきた内容を、保護者にも考えてもらうことができるような機会を設ける。

さらに、地域の方と連携した活動を、学校の道徳教育の一環として位置付けることができるような活動計画を検討していく。地域のボランティア活動や、交通安全に関する活動、PTAとの共催で行う挨拶運動や資源回収など、校外の方と活動する機会を効果的に生かしていけるような立案をしていく。そして、こうした取組の様子を、学校通信やホームペ

ージ等で積極的に発信していく。

### 3 研究主題とその設定理由

#### (1) 研究主題

「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実  
～ 家庭・地域との連携を生かした道徳教育の推進 ～

#### (2) 主題設定の理由

これまでの実践では、生徒の主体性を育むことをねらいとして、生徒自身の手で授業を創ることを意識してきた。生徒が考えた「依中5本柱」「あいうえお反応」「つながぎ言葉」「振り返り名人」が授業を支えている。また、今年で14年目となる「よさっぴタイム」の取組で、生徒同士が分け隔てなく関わり合う場を設定している。

本校生徒のよさは、相手の話をよく聞き、素直に受け止める温かな人間関係を築けることである。この生徒のもつよさは、自身の思考を広げ、深める、新学習指導要領で目指す「深い学び」に通じ、生徒自身の可能性を大きく広げるものであると考える。毎月の振り返りでは、「地域の人に挨拶ができてうれしかった」「地域のボランティアに参加できてよかった」と、地域とのつながりに喜びを感じる生徒がいる。道徳の授業においては、他の授業と同様に温かい雰囲気の中で授業が進む。しかし、まじめであるがゆえ、教師が求める答えは何かと考えながら発言したり、仲間と違う考え方をもちことに慎重になったりする姿が見られる。

本校教員は、担任の約40%が20代で構成され、非常に若い教員集団であると言える。教科ごと結びつきが強く、ふだんの授業について熱く議論を交わす姿も見られる。しかし、これまで道徳の授業について深く追究する機会がなく、道徳の授業が苦手だと思っていたりうまくいかないと感じていたりする教員も少なくない。

保護者は、PTA活動を中心に学校の活動に協力的である。資源回収や夏休みの夜間補導などのボランティアの募集に、多くの保護者が応じた。生徒会主催の挨拶運動とタイアップしたPTA挨拶運動では、30名以上の保護者がボランティアとして参加したこともあり、登校する生徒を笑顔で出迎えている。

校区内は田園地帯に囲まれ、ミササガパークやフローラルガーデンよさみなど市民の憩いの場である公園も多数あり、子供が育つ環境として恵まれている。また、学区内の3地区（小垣江地区・半城土地区・高須地区）からのボランティアの依頼に対し、年間100名以上の生徒が参加している。敬老会や地域の運動会、祭りや防災訓練などにおいて中学生が活躍する機会を積極的に与えていただき、生徒もそれに喜んで応じ、生徒と地域との結びつきは強いと言える。ただし、校区の小学校と比べると、中学校は敷居が高いと感じている地域の方々も少なからずいるという声もある。

以上のことから、本校ならではの取組を生かし、道徳の授業を通して、道徳的価値観について互いに考え、うわべだけの意見ではなく本音で議論し合い、そこからよりよい生き方を模索し、実践しようとする力を身に付けた生徒を育成したいと考えた。また、協力的な家庭や地域の特色を生かし、家庭や地域と連携した道徳の授業を展開することで、生徒が多様な価値観に触れながら自分の生き方の可能性を広げられる力を伸ばしたいと考えた。

### (3) 目指す生徒の姿

互いに考え、本音で議論し、よりよい生き方を模索しようとする生徒

## 4 研究の概要

### (1) 研究の仮説

**仮説1** 道徳の授業づくりの工夫や指導力の向上を図り、それを基にした道徳の授業を展開すれば、生徒が道徳的価値観について深く考え、本音で議論し合い、よりよい生き方を模索しようとする力を身に付けるであろう。

**仮説2** 学校の教育活動に協力的な家庭や地域の特性を踏まえ、連携を深めながら道徳の授業に生かせば、生徒が多様な価値観に触れながら、家庭や地域のよさに気づき、自分の生き方の可能性を広げられるであろう。

### (2) 研究の手立て

#### 仮説1に対する手立て

ア 本校のこれまでの研究を生かした道徳の授業づくりの工夫や指導力の向上

- ・ 「教師8か条」の道徳版へのアップグレード
- ・ 「メンター研修」の実施と、「道徳版 レーダーチャート」の活用
- ・ 「小さな道徳」の実施

イ 生徒が自分自身を振り返り自己を見つめ直したり、教員が自分の授業を振り返り次の授業に生かしたりできる道徳の授業改革

- ・ 「リレー・ローテーション道徳」の実施
- ・ 道徳の「小単元化」の構想と、「一枚ポートフォリオ」の使用

ウ 「特別の教科 道徳」の授業づくりや指導法の工夫や改善、さらなる向上

- ・ 岐阜聖徳大学教授 山田貞二先生を計画的に招へいした研修会の実施

#### 仮説2に対する手立て

ア 家庭と連携した「特別の教科 道徳」の授業づくり

- ・ 保護者向け道徳授業の実施

イ 地域と連携した「特別の教科 道徳」の授業づくり

- ・ 地域のゲストティーチャーを招いた道徳授業の実施

ウ 家庭や地域に向けた道徳における実践の発信

- ・ 学校だより「よさっぴ道徳通信」の発行

### (3) 研究計画

月	日	曜	主 題 研 究 の 取 り 組 み	
			活 動 内 容	備 考
4	3	水	◇主題全体会1	研究の概要について よさっぴタイム・小さな道徳研修
5	7	火	◇主題全体会2	山田貞二教授による師範授業
5	30	木	◇主題推進委員会	1学期の実践について
6	3	月	◇主題全体会3 学年ミーティング	1学期の実践について
6	17	月	◇1学期メンター研修開始	全4回の実施（～7/8）

7	1	月	◇主題全体会 4	よさっぴタイム研修会 曾山和彦様による指導・助言
7	30	火	◇主題全体会 5 ◇主題推進委員会	山田貞二教授による講義 「教材分析と授業づくり演習」 2学期の実践について
8			◇教材・学習過程の開発と指導法研修	
9	9	月	◇若手メンター研修 ◇主題全体会 6 学年ミーティング	若手教員の授業力向上 2学期の実践について
9	18	水	◇模擬授業①	9/19に向けた模擬授業と協議会
9	19	木	◇家庭と連携した道徳授業	保護者向け道徳 全校一斉道徳授業参観
10	7	月	◇メンター研修① ◇主題全体会 7 模擬授業②	リレー・ローテーション道徳の開始 10/18に向けた模擬授業と協議会
10	18	金	◇地域と連携した道徳授業 ◇主題全体会 8 山田貞二教授による指導・助言	ゲストティーチャーを招いた道徳授業 主題全体授業 (1年7組、2年4組、3年6組)
10	21	月	◇メンター研修②	
10	31	木	◇主題全体会 9 模擬授業③	11/14に向けた模擬授業と協議会
11	14	木	◇メンター研修③ ◇主題全体会 10 山田貞二教授による指導・助言	愛知県道徳教育推進会議研究推進校視察 主題全体授業 (1年1組、2年5組、3年1組)
12	9	月	◇メンター研修④	
12	12	木	◇主題全体会 11 山田貞二教授による指導・助言	実践の振り返り、成果と課題の共有 実践集作成に向けた役割分担
1	16	木	◇主題全体会 12	実践集の原稿の検討と修正
2	3	月	◇主題全体会 13 山田貞二教授による指導・助言	今年度の振り返り 来年度に向けた成果と課題の共有

#### (4) 研究課題にかかわる取組

##### ア 山田貞二先生による師範授業と講義

岐阜聖徳学園大学教授の山田貞二先生を講師として招き、2年5組にて『バスと赤ちゃん』を教材とした師範授業を全職員で参観した。「今日は何について話し合いますか」という問いかけによって生徒自身が本時の当てを考える導入、コミュニティボールを用いた生徒のよい発言のテンポの引き出し方、「拍手は誰に対する、あるいは何に対する拍手だったのでしょ」という多面的な道徳的価値を引き出す中心発問、そして生徒の発言を分類しながらまとめる構造的な板書など、これまで本校で行ってきた道徳の授業との違いを感じることができた。また、心の数直線を用いながら生徒の本音を引き出し、「降りたいという母が2人いますが、これは思いやりですか」という深化発問により





は、前述の「道徳版 教師8か条」に準ずる。

### エ 「小さな道徳」

生徒同士の関わり合いの活発化や、身近な題材から道徳的価値を得ることを目的とした「小さな道徳」を、月に1回程度、5時間目開始前の10分間で実施している。10分という短い時間でできる道徳で、身近にあるキャッチフレーズの言葉について考えたり、身の回りのものを題材に道徳的価値を深めたりする。

6月17日に行われた今年度第1回の取組では、本田技研工業株式会社のキャッチコピー「を変える。それがいちばん人生を変える。」【資料3】の空欄に入る言葉を考え、それがなぜ一番人生を変えるのかについて話し合いを行った。空欄には、「ふだん」という言葉が入るのだが、生徒たちに考えさせると、『言葉』が入ると思います。理由は、言葉づかいはすごく大切だと思うし、周りへの印象も変わり、結果的に人生が変わると思うからです」「自分の凝り固まった認識を変えると人生が変わりそうなので、『見方』だと思います」などの意見が出た。

山田先生が提唱する、「コミュニティボール」を使用し、挙手制ではなく生徒自身が次の発言者を指名する方法を取り入れたこともあり、これまでの道徳の授業よりも、気軽に意見が言えたり、和気あいあいとした雰囲気の中で生徒同士が議論したりする姿が見られた。

### オ 「リレー・ローテーション道徳」



【資料3】小さな道徳

#### 2学期メンター研修

①10/7(月) ②10/21(月) ③11/14(木) ④12/9(月)

※ メンター研修とは…授業者をメンティー、指導者をメンターとした校内研修

リレー・ローテーション道徳(3クラス・5人グループ用)

学級	仮1			仮2			仮3		
	教材	授業者	指導者	教材	授業者	指導者	教材	授業者	指導者
①週	A	ア	イウ	B	エ	/	C	オ	/
②週	C	オ	/	A	イ	ウア	B	エ	/
③週	B	エ	/	C	オ	/	A	ウ	イア
④週	D	ア	/	D	イ	/	D	ウ	/

特別支援学級用

学級	仮1		
	教材	授業者	指導者
①週	B	エ	アイオ
②週	C	オ	アイエ
③週	D	イ	アエオ
④週	A	ア	イエオ

リレー・ローテーション道徳(4クラス・5人グループ用)

学級	仮4			仮5			仮6			仮7		
	教材	授業者	指導者	教材	授業者	指導者	教材	授業者	指導者	教材	授業者	指導者
①週	A	カ	キ	B	コ	/	C	ク	/	D	ケ	/
②週	D	ケ	/	A	キ	ク	B	コ	/	C	カ	/
③週	C	カ	/	D	コ	/	A	ク	ケ	B	キ	/
④週	B	キ	/	C	ク	/	D	コ	/	A	ケ	カ

※各学年、2つのグループに分かれる

※学級は自由に変更可能

※1・2年生は7学級のため、3クラス用と4クラス用を併用する。3年生は6学級のため、3クラス用のみ使用する

指導案発案者

題材A ウ 題材C オ  
題材B エ 題材D イ

2学期の実践のまとめ

→ 教材Aで、アが行う

教材A・B・C・Dで小単元を組む

→ テーマ「」

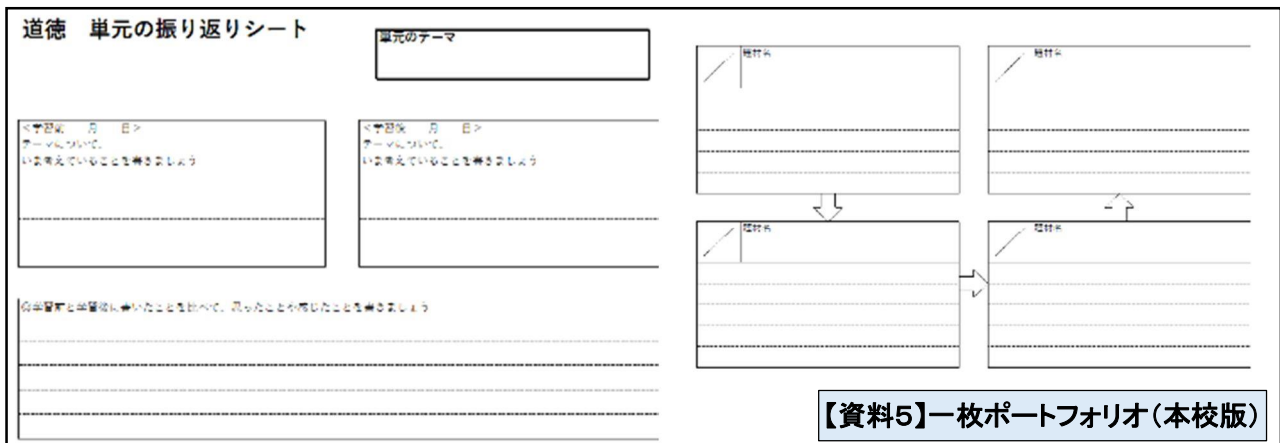
【資料4】リレー・ローテーション道徳 計画表

ふだんの授業の中で計画的に授業の質を高めるために、「リレー・ローテーション道徳」【資料4、p6】を計画し、前述の「メンター研修」と組み合わせて実施した。「リレー・

ローテーション道徳」とは、1つの教材を複数の教員でリレーしながら指導案をブラッシュアップさせる「リレー道徳」と、一人の教員が同一教材を用いて複数の学級で授業を行う「ローテーション道徳」を組み合わせた授業法である。本校は、1学年6～7学級で、学年教員が10人程度のため、学年を2つに分け、教員5人で1チームとして行っている。

1学期は、教材Aを研究教材として行った。2学期は、上の図のように教材Aを研究教材として、「小単元」を組んで実践を行っている。

### カ 道徳の「小単元化」と「一枚ポートフォリオ」の使用



各学年で単元のテーマを設定し、全4回の授業で、道徳の授業の「小単元化」に取り組むことで、テーマ追究型の授業を目指した。1年生は「人との関わり」、2年生は「職場と地域貢献」、3年生は「集団や社会との関わり」というテーマで取り組んだ。このような小単元を設定することで、1時間1時間で完結するのではなく、中長期的に生徒が自分自身を見つめ、よりよい生き方を模索することを願った。

小単元における生徒個々の道徳性の成長を見取るために、愛知県総合教育センターが作成した「一枚ポートフォリオ」を本校独自の形【資料5】にしたものを使用することとした。現在は、この「一枚ポートフォリオ」を活用しながら小単元の取組をしているため、単元の終了後には、生徒の道徳性の成長の見取りだけでなく、評価にも結びつけたいと考えている。

### キ 学校だよりにおける「よさっぴ道徳通信」のコーナー

本校の道徳の授業への取組を、少しでも家庭や地域に知ってもらおうと、毎月発行される学校だよりの一部に「よさっぴ道徳通信」のコーナー【資料6】を設け、全家庭と800戸を超える地域住民に配付している。2学期以降に本格的に始める「家庭・地域との連携を生かした道徳教育」に対する理解と協力を求めることを、ねらいとした。

地域の方からは、「私たちの頃の道徳は、やっているのかやっていない



のか分からないような授業だった。今はこんなにも道徳の授業に力を入れていらっしゃるのですね」という感想をいただき、徐々にではあるが、本校の実践について知っていただける機会が増えていることを実感している。

#### ク 保護者向け道徳の授業

授業参観に伴い、保護者を対象とした道徳の授業を行った。この日の授業参観で行う道徳の授業の模擬授業という形で、生徒と同じ教材、同じ指導案にて、事前に申込みのあった24名の保護者を対象に授業を行った。

教材である「二通の手紙」を通して、「規則」と「思いやり」という2つの道徳的価値について考えを深めることをねらいとして授業を行った。保護者の立場や、自身の社会人としての立場など、様々な人生経験をされているからこそその迷いや葛藤を抱きながら発言する保護者の姿が印象的であった。【資料7】

保護者向け道徳の授業の様子



自分の思いは違う、いろいろな意見を聞けた良かった。  
何が正しく、間違っているかは、それぞれの人々の思いによっても違ってくるので正解はないと思う。自分のその行動に責任をもち、後悔なく生きていけると思う。

社会に出ると、規則・ルールは守って当たり前で思っている。例外も作り、あつて、あの時どうだったとが事後には分かるが、もう一方で規則にこだわらずに人の気持ちや思いやりを考えた方がいいのは、何かが楽しいなと思う。  
規則と思いやり、どちらか一方だけではなく、うまく共存できる世の中になるといいな。

【資料7】保護者の振り返り

また、その後行われた授業参観でも、「二通の手紙」を教材に、全校で道徳の授業に取り組んだ。教材を読み、生徒自身がこの授業で考えたいことを基に「めあて」を決めるクラスがあったり、「規則」と「思いやり」という二つの価値観の中で気持ちが揺れ動いたことを素直に発言する生徒がいたりするなど、これまでの道徳の授業とはひと味違った授業の展開になった。また、大人とはまた違った見方で問題を捉えたり、柔軟な感性で意見を述べたりする姿が見られ、学級の生徒の実態に応じた発問を工夫したことが深い議論につながったと考えられる。

さらに、授業を参観した保護者にも、授業の感想や、「二通の手紙」の教材で考えたことを書いていただいた。【資料8】生徒たちが道徳の授業で交わす議論に保護者が共感し

#### 保護者の方より（授業の感想や、この教材で考えたことなどを自由にお書きください）

「年齢によって答えは変わっていく」という最後の意見に共感しました。  
これからいろいろなことを経験していく中で、規則やルールの範囲を見極めながらも、他者の気持ちに寄り添った答えを導き出せる大人になってほしいです。

【資料8】保護者の感想



たり、保護者の願いを生徒が受け取ったりしたことで、家庭で道徳の授業について話題に挙がる機会となったのではないか。

### ケ 地域のゲストティーチャーを招いた道徳

生徒が実感しにくい実話教材から道徳的価値を学んだり、身近な世界から見知らぬ世界に気付いたりしてほしいという願いから、地域の方をゲストティーチャーとして招いて道徳の授業を行った。



授業の様子(1年)

1年生の実践では、異文化を尊重し理解し合おうとする判断力を育てることをねらいとして、外国人のためのコミュニティー団体を立ち上げて地域で活動する川口ビバリさんをゲストティーチャーとして招き、授業を行った。教材の中の「外国の方の考えと日本の方の考えのどちらに共感できますか」という発問に対し、多くの生徒が日本寄りの考え方を支持する中で、ビバリさんも「今は完全に日本の考え方に共感しますね」と発言したことで、生徒たちは驚きの声を上げた。また、ビバリさんがそのような考え方に至る経緯を尋ねたり、異なる文化で生活することの困難さを語っていただいたりするなど、ビバリさんと対話しながら、国際理解について考えを深める生徒の姿が見られた。【資料9】

文化の異なる人たちと、分かり合うのは難しいし、その国のルールをずと頭に入れるのは大変なので相手の思いや考えをしっかりと聞いたり大事にして接する事が大切だと思いました。話を聞いて、一番大切なのはお手本になることだと考えました。

【資料9】生徒の振り返り

2年生の実践では、社会の一員として役割を果たそうとする力を育てることをねらいとして、地域で消防団員として活動する藤井さんをゲストティーチャーとして招き、授業を行った。藤井さんの話を聞いたり、消防団の活動を紹介する映像を視聴したりする中で、「地域の人のために朝5時から活動していて、藤井さんの強い思いが伝わった」「仕事とボランティアを両立させていることがすごい」と生徒は発言した。一方で、「練習は嫌にならないのか」「こんなにがんばれる原動力は何か」という疑問が生徒から出たため、藤井さんに答えていただきながら、地域や社会に関わる上で大切なことや、自分にもできそうことなどを言葉にする生徒の姿が見られた。【資料10】



授業の様子(2年)

私は消防団の人の話しを聞いて自分も思っていたけれど消防団の人にも大変な話をしていました。これと私たちか地域の人を支えたり理解することできれば、自分から少くもこのゴミの回収や金をコツコツと稼いでいけば、地域に関わっていくことができると思います。なのでこれからやることを行動でしめていこうとできるように努力したいと思います。

【資料10】生徒の振り返り

3年生の実践では、自分なりの職業観や勤労に対する意識を育てることをねらいとして、地域の老人介護施設に食事を提供する魚国総本社より、調理師の黒川さん、管理栄養士の直井さ



授業の様子(3年)

ん、部長の元山さんの3名を招き、授業を行った。ホスピスで「リクエスト食」に取り組む内容の教材を用いて、登場人物が大切にしていることを生徒が考える授業が展開された。また、実際に「リクエスト食」の取組を始めたという魚国総本社の方々の話を聞くことで、仕事として必要な「食べやすさ」「味や栄養のバランスの取れた食事」を提供することと、作り手の「患者とのコミュニケーションを大切にすること」「患者の笑顔や心の元気を目指したい」という思いに触れることができた。ただし、決まった時間の中で提供する難しさや、従業員や食器の数を確保する大変さなど、ゲストから現実的な問題を聞くこともでき、思いをもって働くことのすばらしさと難しさを実感する生徒の姿が印象的であった。【資料11】

働くということは、相手のことややらなければならぬことの  
 バランスの中でできる限り、相手が喜んでもらえるように  
 努力することだと思いました。今日来てくださった方もおっしゃ  
 いたように、理想はあれど、それを実際にやることは簡単ではなかったが、

【資料11】生徒の振り返り

## 5 研究の評価

### (1) 研究の成果

外部講師の招へいや教員同士による研修を重ねたことで、教材研究・授業づくりの段階で教員同士が対話しながら授業を構想する姿が見られるようになったり、中心発問や深化発問を何通りも考えながらこだわりをもって授業に臨む姿勢が増えたりした。また、教員の意識の変化に伴い、今まで道徳の授業でなかなか自分の意見が言えなかった生徒が発言する姿がたくさん見られるようになったり、周りとの意見が違っても堂々と発言できる生徒が増えたりした。さらに、保護者向けの道徳授業やよさっぴ道徳通信など、家庭や地域と連携した道徳の実践を重ねたことで、本校で行っている道徳の授業について知っていただく機会になった。ゲストティーチャーを招いた道徳授業を行ったことで、新しい気づきを得たり、そこから更に議論し合ったりする生徒の姿が見られた。

生徒のアンケート（5月、1月実施）を分析すると、「道徳科は好きだ」という問いに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」答えている生徒が増えていた。これは、「コミュニティボール」を使用し、挙手制ではなく生徒自身が次の発言者を指名する方法を取り入れたことで、これまでの道徳の授業よりも、気軽に意見が言えたり、和気あいあいとした雰囲気の中で生徒同士が議論したりできたからだと考える。また、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心で学び、自ら高めることができる」と答えている生徒も増えていた。これは、各学年で単元のテーマを設定し、全4回の授業で、道徳の授業の「小単元化」に取り組んだことで、1時間1時間で完結するのではなく、中長期的に生徒が自分自身を見つめ、よりよい生き方を模索することができたからだと考える。

### (2) 今後の課題と取組

生徒が本音で語った意見から、新たな問いを生み出し、そこから生徒が更に深く考え、熱く議論を交わせるような教員の授業力の向上を目指したい。また、家庭・地域と連携した道徳に取り組んできたが、これらの取組を継続していくことが、生徒の道徳性のさらなる成長につながると考える。今後、どのような形で取組を継続させられるか、持続可能な道徳の実践を模索していきたい。